新型コロナウイルスの心配はありますが、対策を講じ本年も開催を予定しております。感染状況によって縮小や中止もあり得ますので、電話やホームページ等でご確認ください。

宝物風入れ展

毎日開催

一年に一度
三日間だけの文化財特別公開
武田家・開山禅師ゆかりの宝物
キリスト・マニの絵画など
※限定御朱印もあります

法話スペシャル　13日開催

建長寺派布教師20分法話（毎時0分，30分～）

住職による境内案内

10時・12時から約30分　12日、14日開催

蕎麦切り奉納

13日開催

午前十時　大般若祈祷
引続　蕎麦ふるまい　茹でたての新蕎麦をどうぞ

幻住坐禅会

毎日　開催

風入れ展開場前に石庭での坐禅はいかがですか。
朝８時～８時４５分

毎日開催

住職手作り精進菓子や
住職手打ち蕎麦でおもてなし
喧騒をはなれ、こころ落ち着かせ
和尚と一緒に楽しくお話ししましょう

囲炉裏カフェ

令和３年　11月12日(金)～14日(日)
9時～15時　志納600円

問い合せ　栖雲寺
０５５３－４８－２７９７

＜発行者＞　臨済宗建長寺派 天目山 栖雲寺　住職 青柳真元
〒409-1201 山梨県甲州市大和町木賊122　TEL 0553-48-2797
ホームページhttp://www.tenmokusan.or.jp　または[栖雲寺]で検索

公式ホームページ
お寺の説明、行事案内など

住職日単(blog)
日常をありのままに、住職日誌

Instagram
天目山の写真　*Please follow*

栖雲寺たより

天　目

第３６号
発行日
令和３年８月１日

摩利支天は、スターを取ったスーパーマリオ

檀家さんと小学生くらいのお孫さんがお墓参りに来ていたとき、その子供から質問をされました。「あの人が持っている武器はなあに？」「どれどれ？」とそちらに目をやると、境内のお地蔵さんを指差しています。「お一武器に見えたかぁ、あれは武器じゃないの。錫杖（しゃくじょう）と言って旅人が使う杖（つえ）だよ。」

お地蔵様は「大地の蔵」と書くように、大地の恵みの象徴です。水・風・塩・食物・地熱など多岐に渡り広い意味では山川草木です。つまり人の姿で現した地球をおまつりしていると言ってもよいでしょう。杖は旅人の携行品。鳥や風が運んで旅をしてきた種が実になりその恩恵を受ける私たち。海から気化して雲となった水は長い旅をして私たちのもとに流れてきます。食物は連鎖しその恩を頂戴する私たちもいつかは人生の長旅を終えて、みなそのお地蔵様である地球に帰っていく。こうやって全ての命はつながっています。そんな大地の恵がお地蔵様であるとありがたく感謝をし手を合わせてまいりましょう。

お地蔵様は錫杖ですが、栖雲寺には本当に武器を持った神様がまつられています。お寺を守る神様（鎮守＝ちんじゅ）の摩利支天様です。摩利支天の一番大きな分かりやすい特徴は「イノシシ」に乗っていること。そして６本もある手には刀・槍・弓・矢・軍配・金剛杵（こんごうしょ＝煩悩を打ち砕く武器）とたくさんの武器を持っています。お地蔵様は大地・地球を擬人化した仏様と書きました。摩利支天は陽炎（かげろう＝上昇気流などで光が屈折し、景色がゆがんで見えること）を擬人化した神様。つまり目に見えないはずの空気を神格化した神様です。

最近小学生たちを案内する機会が増え、摩利支天の御姿を説明するのですがなかなかピンとこない。小学生もちんぷんかんぷんな表情。工夫してアレンジしてたどり着きました。

「摩利支天は、イノシシに乗って敵の陣地へ一直線に突っ込んでいくのね。でも自分自身は空気だから敵に見つからないの。しかも空気だから敵に切られないし捕まらない。それでいて６本の手に全ての武器を持っている。ということは、ダッシュして敵に向かって突っ込んでいっても絶対にやられないスターを取ったスーパーマリオみたいな神様だよ。つまり無敵の神様。だから多くの武将がお祈りもしたし、戦に出るときには小像や御札を身に着けたりして勝利を願いました。」

これが一番話しを聞いてくれるし納得もしてくれます。

※ご存じない方のために、スターを取ったスーパーマリオは、無敵状態のゲームの主人公で、子供ならだれでも知っているキャラクターです。

栖雲寺の摩利支尊天

もともとは、数多の災いから身を隠し、奉持された武器で災難を滅してくださる除災の神様でした。それが無敵のスーパーマリオと表現した通り、戦国時代の武将たちにとっても無敵の神、勝利の神として崇められ、いつの間にか戦いの神様となりました。火伏せ・災難除けの鎮守としてまつられていた栖雲寺の摩利支天も、武田の戦となれば必勝祈願をする神となったのです。合掌

ご祈祷を受け付けております。
《ご利益》
除災招福・家内安全・交通安全・必勝祈願
財福授与・商売繁盛　など

【令和3年　5月～7月活動報告】

6月6日　九輪ピック　と　語りンピック

『九輪草で五輪マーク』

九輪草の花言葉は『幸福を重ねる』です。みんなで持ち寄った幸福を重ね合わせよう。そしてお寺での非日常な時間を通じて幸福を重ねてお帰りいただこう。そんな願いを込め九輪ピックと名付けた花を愛でる会を開催いたしました。例年よりピークが早かったため満開の株は少なめでしたが、幾重にも重なったまん丸い花が癒しをくれました。

室町時代には、いくつもの禅語を掛けて語り合う茶会がありました。6月6日の天目山茶会は中止としたためお茶はお出しできませんでしたが、そんな大昔の茶会を再現するような形で禅語を並べて、みんなで楽しく語り合いました。

《語りんぴっくのお軸》
建長寺派　現管長　吉田正道老師　二幅
円覚寺派二代管長　兼　建長寺派二代管長　釈 宗演老師　一幅
栖雲寺開山　業海本浄和尚　遺偈

ご来山いただきありがとうございました。

6月24日　甲州市長を表敬訪問

『市長室にて』

コロナの影響で栖雲寺の行事も市の行事も縮小や中止が多かったため、前市長から引き継がれて早１年半が経とうというのに、現市長にお会いするのは初めてになります。

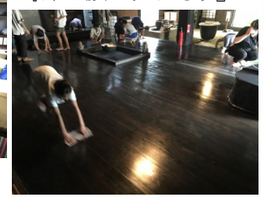
市内の小学校に声掛けをしてお寺に来てもらっていることや、宝物風入れ展、蕎麦種蒔きなどの取り組みを報告。様々な意見交換をさせていただき、1時間近くお話しすることができました。

栖雲寺単体の問題ではなく、大菩薩峠や天目山温泉、景徳院など天目エリアの活性化には市との連携は欠かせません。今後も協力しあえたらと思います。鈴木市長におかれましては、お忙しい中お時間をお取りいただきありがとうございました。

7月27日　天目山寺子屋開催

7月27日の業海本浄和尚様の命日に毎年行っている大和小学校の勉強会。昨年はコロナで未開催、一昨年までは高学年のみが来てくれていましたが、今年は学校側の希望で対象児童が全校児童に拡張されました。法話や坐禅は1年生に合わせ、勉強も掃除も全員で一緒に。掃除体験では板の間の雑巾がけ。こんなことできる場所ないからなあ、おそらくみんな初体験でしょう。全児童で一斉に行う雑巾がけは本当に楽しかったようです。天井の電気が反射するほどピカピカになりました。

『涼しい本堂で勉強』


『床に顔が映りそう』

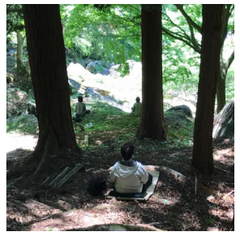
『よーいドン』

『1年生も上手にできました』

YBSツアーが催行されました

『石庭会館で坐禅の心得指導』

YBSトラベルが協力してくれた栖雲寺日帰りツアーは成功裏に終わりました。5月の第1回は満席の16人、6月の第2回は10人、7月の第3回は残念ながら申し込みがなく催行されませんでした。
「7月は暑くて高齢者の申し込みが見込めないから厳しい。」とは設定日の検討段階で言われていたことなので、そう考えますと実質2回の募集と催行で皆様方にも満足いただき大成功であったと思います。


『各々禅庭で岩坐禅』

《添乗員さんから頂戴したメールの抜粋》
「今回のYBSツアーは大成功だったと思っております。帰りのバスで参加者に感想を聞いたところ、バスの窓が割れるのではないかというほどの大きな拍手をいただきました。特にけんちん汁の出汁の香り、ご住職の飽きさせず分かりやすい説明やお話し、そして庭で自然を感じながら岩坐禅が出来たこと。内容の全てが、コロナ禍で旅行にも行けない最近の疲れを癒してくれたとこれだけ参加者の反応が大きかったツアーは本当に久しぶり・・・。」

と高評価をいただきました。今後も同様のツアーを企画してまいります。

蕎麦畑

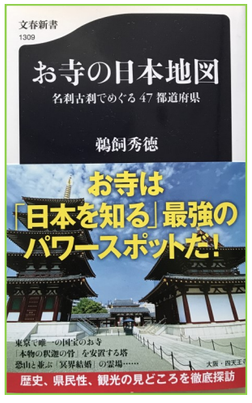
『畑は一面が満開』

檀家さんの畑と本堂前とに蒔いた蕎麦の種は、きれいな花を咲かせました。しかし本堂前は土壌が極端に悪く、発芽までは順調でしたが成長面が大きな課題となりました。今後は蒔く場所も再検討し土壌改良もしてみようと思います。

住職手打ちそばの坐禅研修

一日坐禅研修の斎座（昼食）に住職の手打ち蕎麦を出し、お寺の作法で蕎麦を食べる。そんなことがやりたくて蕎麦打ちの修業をはじめたのです。
6月24日の坐禅研修で初めて実現しました。境内案内や坐禅を指導しながらの斎座支度は蕎麦も茹でたり大変で、今後に向けて改善すべき点もありますが、ひとまず成功です。今後は、蕎麦切り坐禅会を増やしていきたいです。

山梨を代表するお寺として取り上げられる



全国にある多くのお寺を取材され、お寺研究の第一人者である鵜飼秀徳氏が、47都道府県から1ヵ寺のみをセレクトし執筆した書籍が2021年4月20日に文春新書から発行されました。普通のガイドブックや紹介本は京都や鎌倉のお寺に集中しがちですが、この本では全国をまんべんなく取り上げています。山梨の代表としては、身延山でも甲斐善光寺でも恵林寺でもなく栖雲寺が選ばれました。山梨県ナンバーワンのお寺として認定されたとも言えます。
まえがきには、一都道府県から一寺院は強引のようだが、まんべんなく日本の寺院を俯瞰することで『寺とは何か』『日本人とは何か』を浮き上がらせることが目的とあります。
鵜飼氏の取材には栖雲寺も協力いたしました。鎌倉の代表としては建長寺も載っておりますので、是非ご一読ください。